



I B A R A K I 赤十字ボランティア通信

新潟県中越沖地震活動報告

平成19年7月16日、午前10時13分ごろ新潟県中越沖地震（マグニチュード6.8 最大震度6強）が発生しました。当支部では新潟県支部の要請により、医療救護班2個班を派遣したほか、防災ボランティアによる救援物資の搬送を行いました。

以下は現地で活動を行った防災ボランティア・リーダーの報告です。

○日本赤十字社茨城県支部
防災ボランティアリーダー 瀧英泰さん

7月23日から24日の2日間にわたり柏崎市・刈羽村・西山町の各避難所に緊急セットを配布してきました。避難所は自衛隊が待機していて、炊き出し・給水・風呂などの救援活動がある所や個人で炊き出しや飲み水の確保などを行っている所など様々でした。柏崎市の避難所では中学生数人が、「自分の家は大丈夫だから手伝いに来た」と話し、その他のボランティアの人たちも前回の地震の経験から手際よく作業されていました。

初めての地震災害の現地ボランティア活動でしたが研修会・訓練とは違う展開がたくさんあり、今後の訓練などにも生かしていきたいと思いました。



新潟県柏崎市へ出発



救援物資の積込作業

○笠間市地区同リーダー 鶴田弘司さん

新潟県でのボランティア活動は、今回で4度目になりますが、今回は、日本赤十字社茨城県支部の災害倉庫から救援物資「緊急セット」を避難所に届けるという今までにない大事な活動です。

北陸自動車道に入ると、救援物資を積んでいる車両が目につくようになり、柏崎市に近づくと、いたるところでブルーシートを掛けてある家々や倒壊している家が目につきました。

「緊急セット」の配布は、指定された避難所に地図を基に向かい、各避難所の責任者の方に、救援物資の内容などを説明、数量を確認していただき置いていきました。お年寄りや子どもたちが暑い中、静かに時間を過ごしている様子がとても心を打ちました。

※日本赤十字社の対応、ボランティアの活動状況などは第4面にも掲載しています。

第5号

平成19年度 冬号

ボランティア

活動最前線

「牛久Waiワイ祭」で赤十字をPR

牛久市赤十字奉仕団

平成11年、牛久市赤十字奉仕団は4地区の民生委員・児童委員協議会から7～8名ずつが集まって4班31名で発足しました。

発足した年の8月に茨城県・牛久市総合防災訓練があり、この行事に赤十字ボランティアとして参加し非常食の炊き出しを行ったのが初めての活動となりました。



同年11月の市民行事「牛久Waiワイ祭」にも参加して、炊き出しを行い、来場した方々に非常食の配布をしながら赤十字のPR活動をしました。以来、11月3日（祝）の同行事には毎年参加して非常食の炊き出しを行うとともに災害救援の募金活動を行って赤十字のPRに努めています。

また、日常生活にも役立つものとして救急法や家庭看護法の講習会や研修会を行っており、昨年は「災害時における赤十字奉仕団の役割について」という研修会を開催し、大変勉強になりました。

民生委員としての仕事もあり、諸行事に奉仕団員全員参加は無理ですが、できる限り参加するように努めています。なお、民生委員を辞めても奉仕団活動は続けて頑張っている人もいます。

奉仕団データ	委員長	平田 善憲
	団員数	32名 (男性 10名、女性 22名)
	主な活動	赤十字研修会の開催 市民行事へ参加

乳児たちの笑顔に魅せられて

乳児院奉仕団

私たち、乳児院奉仕団は昭和62年に結成され、今年で活動21年目を迎えます。私たちの活動の第一の目的は赤ちゃんとのスキンシップです。毎日、午前午後1時間半の活動の中で「授乳」「離乳食の介助」はもちろんですが、抱っこをしたり、声を掛けたり、おもちゃ遊びなどをしてどの赤ちゃんにも肌の温もりを伝えてあげたいと心がけています。その他、洗濯物の整理、おもちゃの消毒、庭の除草などを行っております。乳児たちの成長の早さに目を



見張りながら、次の活動日が楽しみで足を運んでいます。そんな仲間たちの集まりです。

曜日ごとに担当を分け活動しているため、団員相互の親睦を図る機会として各班の集いを年3回、全体での研修を年1回行っており、昨年は高萩市にある同仁会子どもセンターを訪れ、有意義な時間を過ごしました。また、支部が開催する救急法フェスティバルにも毎年参加して連携を図っています。

社会状況は大きく変化し、子どもたちを取りまく家庭環境、地域環境も大きく変化しており、乳児院の乳児たちの環境も変わっていることでしょうか。しかし子どもはどんな時代でも大人の温もり、愛情に見守られながら育てられていくものと思っています。子どもたちの健やかな成長と笑顔に支えられながら活動を続けていきたいと思っています。

奉仕団データ	委員長	村田 きみゑ
	団員数	84名(男性 3名、女性 81名)
	主な活動	乳児院における奉仕活動 (授乳、離乳食の介助、遊び相手など)

奉仕団員のレベルアップをめざして

東海村赤十字奉仕団

6月29日、団員の要望により、「AED」の取り扱い講習会を行いました。はじめての事業なので、できるだけ多くの方に参加していただけるよう、全団員に呼びかけたところ、69名の参加者があり、指導員の方の説明に合わせて、いざという時のためにみな真剣に取り組んでいました。団員からは「前の方のやり方を見ていても、いざ自分の番になると



すっかり忘れてしまう」「毎回、手順を考えながら、頭を使う講習だった」との感想でした。これからも、救急法をはじめとする各種講習会の機会を設けて、皆で繰り返し練習したいと思っています。

また、8月4日には東海祭りに参加し、無洗米に味付けをした非常食を作り、村民の皆さまに配布しました。試食された方々からは「意外とおいしいね」「手が汚れていても食べられるから便利だね」といった感想が聞かれ、多くの方に非常食について興味を持っていただく機会となりました。

今後は、家庭看護法の研修を実施して、地域での高齢者支援につながればと考えており、1人でも多くの団員の方に参加して欲しいと思っています。

奉仕団データ	委員長	永山 ミツイ
	団員数	171名 (男性 16名、女性 155名)
	主な活動	赤十字講習会の開催、 非常食炊出し訓練の実施 赤十字PR

第30回 青年赤十字奉仕団リーダー養成研修会

8月10日から12日、常陸太田市西山研修所にて「青年赤十字奉仕団リーダー養成研修会」が開催され、県内の青年赤十字奉仕団に所属する学生12名が参加しました。当研修会は昭和52年度から毎年開催され、今年で30回目の節目となる歴史ある研修会で、赤十字に関する知識の習得、奉仕活動を推進するリーダーとして必要な資質を養うことを目的に開催しています。



研修会では、家屋倒壊や崖崩れなど災害を想定した救助活動シミュレーションを行い、防災ボランティアとしての知識を深めたほか、奉仕活動の企画書作りを通じて、現在行っている奉仕活動を見直す「ワークショップ」を行いました。

参加者からは「『救助活動シミュレーション』では、救急法を実践する良い機会となったが、焦ってしまい上手にできなかった。繰り返し練習したい。」「今後、防災訓練などに積極的に参加して学んだ救急法を実践したい。」との感想があがりました。

また、奉仕活動の企画書作りを通じて、現在行っている奉仕活動を見直しました。長時間集中しての作業に苦勞しながらも「自分に可能であり、すべき奉仕活動とは何なのか、見直す良い機会となった。」「とても難しかったが、やり遂げた達成感は忘れられない。」などの意見が聞かれ、参加者は皆、充実した3日間を過ごしたようでした。

青年赤十字奉仕団とは
18歳以上の学生、社会人など若者が中心となり福祉施設訪問、献血推進などの活動に取り組んでいます。

ボランティア紹介

私にとってボランティア(赤十字)とは

行方市赤十字奉仕団

大原 孝 趣味*日本舞踊、ゴルフ

一言にボランティアと言っても多種多様です。災害時に被災者の支援をするボランティアもあれば、私たちのように地域に根ざしたボランティアもあります。私たちは、一人暮らしのお年寄りたちへの給食サービス、地域のお年寄りたちをコミュニティセンターに招いて、交流会を開催するなどの活動をしています。交流会では私たちが作っているおやつを食べながら、手ぬぐい体操、ゲーム、踊りやカラオケなどをして楽しい一時を過ごしています。皆、顔なじみになって大声で笑い語り合い、本当に心から楽しんでもらっています。元気な姿でありがとうとお礼を言われた時のうれしさは励みになり、また来月も元気で会う約束をして別れます。



海上特別奉仕団

磯崎 茂夫 趣味*モーターボート
アマチュア無線

今から二十数年前、趣味のモーターボート仲間が集まり、皆で何か世のためになる事は出来ないかと始まったのが海上特別奉仕団です。現在は自分たちの船を使って海上でのパトロール活動や、社会福祉施設の子どもたちを招待して乗船体験などを行っており、今後も赤十字の精神に基づき、世界の平和と人類の福祉に貢献できるように団員一丸となって活動を行います。



インフォメーション

新潟県中越沖地震における対応について

日本赤十字社の対応

日本赤十字社では、地震発生後、直ちに本社と各都道府県支部でそれぞれ情報を収集しながら災害救護活動を開始し、新潟県内 11 の避難所へ 16 個班からなる 124 名の医療救護員を派遣、被災者のけがの治療や巡回診療を行いました。7月29日までに 44 個班 1,001 名の救護要員を派遣し、2,650 名の診療にあたりました。

赤十字ボランティア活動状況

地震発生直後より、新潟県の赤十字奉仕団をはじめ、全国から 202 名の赤十字ボランティアが集まり、災害情報や被災者のニーズ情報の収集、救援物資の搬送、炊き出し、新潟県支部などでの災害救護業務支援と様々な活動を行いました。

茨城県支部の対応

茨城県支部からは医師や看護師からなる医療救護班 2 個班を派遣しました。また緊急セットなど救援物資配布のため、防災ボランティアリーダー 2 名が支部職員 1 名とともに活動に参加しました。携帯ラジオや懐中電灯など 25 品目が 1 つになった緊急セットは柏崎市ほか 7 ヶ所の避難所に計 300 個、ブルーシートは柏崎市内に 500 枚を配布しました。



医療救護班による診療の様子